

双日株式会社



我が社の担当者紹介 -食料事業部 飼料畜産事業課



◆ 浅見 昂志（あさみ こうし）

はじめまして。双日株式会社の浅見昂志と申します。
入社3年目となり、現在は主にトウモロコシの受渡し業務を担当しております。

私は幼少期から農地や自然が好きで、大学院では畜産害虫防除の研究に取

り組んでいました。具体的には、「牛の血を吸うハエに寄生するアリンコのような小さな蜂(名称はキャメロン)」を対象にしており、畜産現場と昆虫の関係を日々追いかけていました。農業に携わっていた祖父の影響もあり、食



キャメロンによるサシバエ防除の特徴

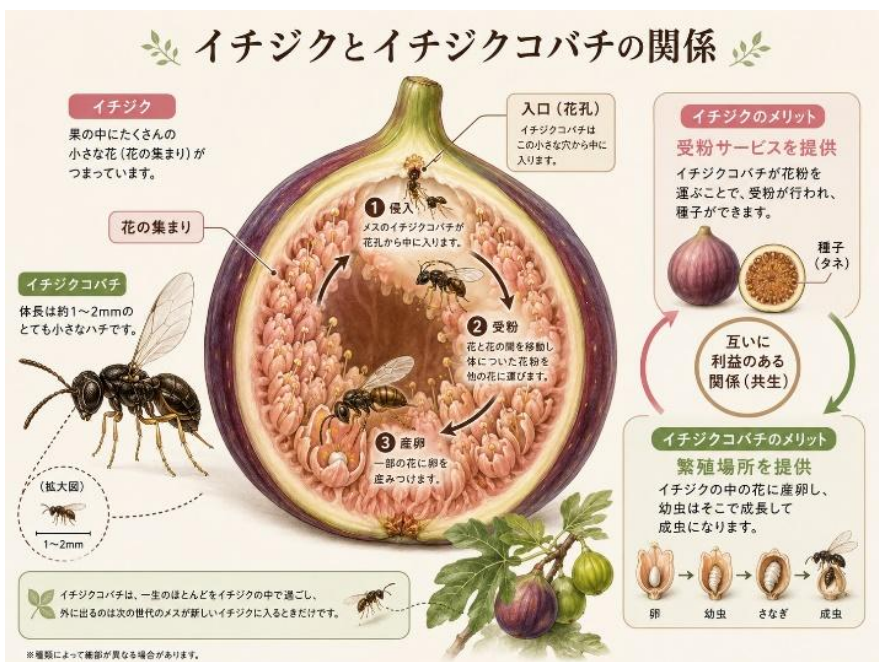


や農畜産への関心は今でも自分の仕事の根っこにあります。また、「美味しいものさえ食べればそれでいい」という祖母の言葉は、今も自分にとって大切な価値観になっています。

少し私事になりますが、現在、相場レポートの中で「アサーブル CORN 虫記」という小さなコラムを書いています。名前はファーブル昆虫記のパロディでコラムを始めた当初に勢いで決めました。もともとは大学院時代の研究や昆虫好きがきっかけですが、昆虫の生態について相場や飼料業界、人間関係の話に少しでも絡めながら紹介する内容です。

毎回、相場レポートの本筋から脱線しつつも、自然界の仕組みから、ビジネスや人間の本質について考えるきっかけになればと思いながら書いています。

さて、今回のアサーブル CORN 虫記のテーマは「トレード」です。取り上げるのは、イチジクとイチジクコバチの関係です。



イチジクは、一見すると果実のように見えますが、実は内側に小さな花を

たくさん抱えた特殊な構造をしています。外から花が見えないため、一般的なハチやチョウが訪れて受粉することはできません。そこで登場するのが、イチジクコバチです。

イチジクコバチは、イチジクの小さな入口から中に入り込み、そこで産卵します。イチジクはコバチに「繁殖場所」を提供し、コバチはその代わりにイチジクの中で花粉を運び、「受粉サービス」を担います。つまり、イチジクとイチジクコバチは、お互いに必要なものを交換している関係です。

これは自然界における、かなり高度な「独占契約型トレード」と言えるかもしれません。誰でも参加できるオープンな市場ではなく、特定のイチジクには特定のイチジクコバチが関わるのが多く、まるで長年の専属取引先のような関係です。契約書も、船積書類も、品質証明書ありませんが、そこには確かに、長い時間をかけて成立した取引関係があります。

もちろん、この関係は一方的なものではありません。イチジクコバチがいなければ、イチジクは受粉できません。一方で、イチジクがなければ、イチジクコバチも次世代を残す場所を失います。お互いに利用しているようで、お互いに依存している。自然界のトレードは、静かですが、非常に精巧にできています。

取引とは、単にモノやサービスを交換するだけではなく、相手との関係の中で成り立つものなのかもしれません。必要とされ、必要とする。その関係が続いていくことで、そこに一つの流れが生まれます。イチジクとイチジクコバチの関係を見ていると、トレードの本質は、意外と自然界の中にも静かに息づいているように感じます。

関係者の皆様や社内の上司、そして昆虫からもまだまだ学ぶことばかりです。日々の受渡し業務を通じて、関係者の皆様に安心していただける担当者になれるよう努めてまいります。

また、昆虫や害虫駆除、少し変わった生き物の話にご関心のある方がいらっしゃいましたら、ぜひお気軽に浅見までご連絡ください。相場レポートの片隅ではありますが、今後も「アサブル CORN 虫記」を細々と続けていきたいと思っております。

今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。